災害時の施設混雑やインフラ稼働状況を伝える仕組み
指定避難所および寺社等宗教施設あわせ約30万件
日本最大級の災害救援・防災マップ

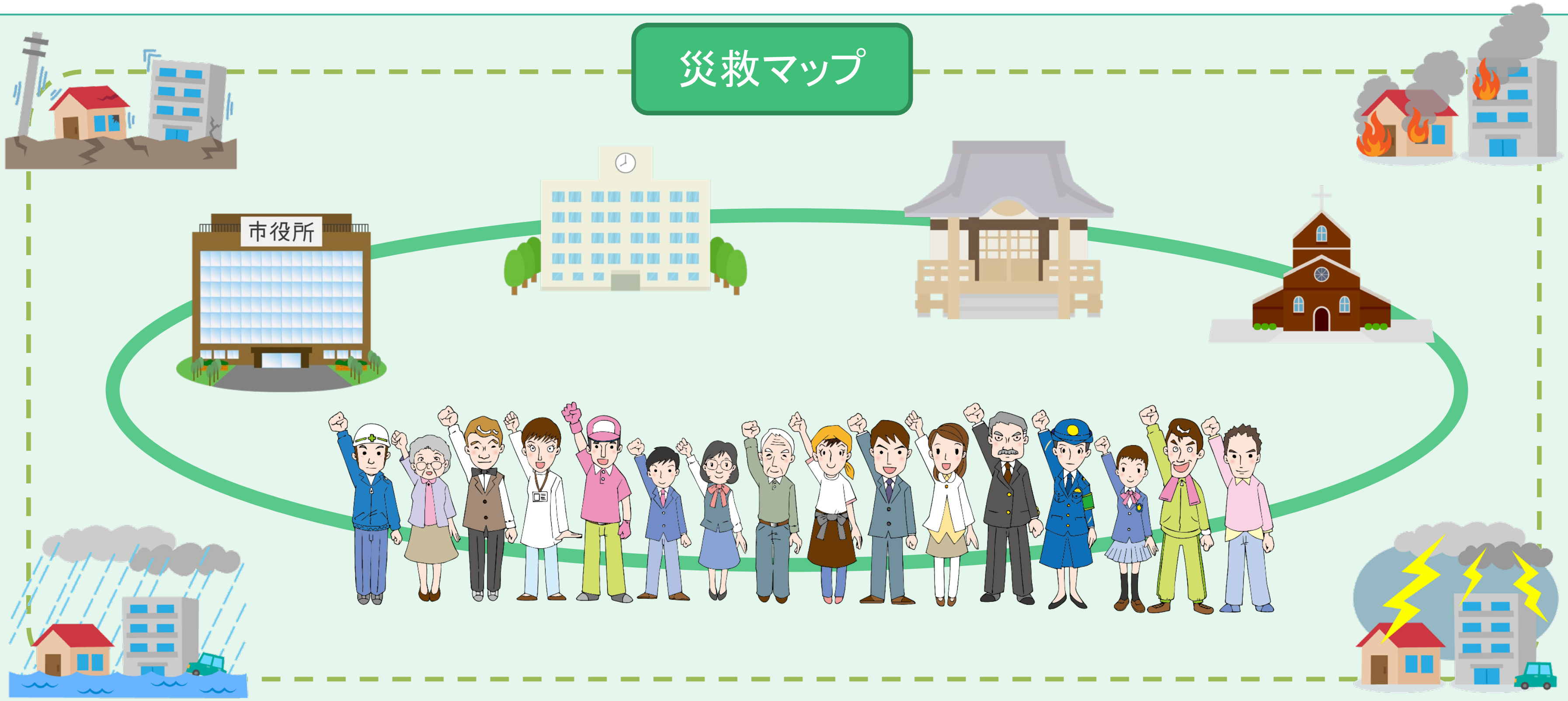
未来共生災害救援マップ
災救マップ
概要

大阪大学
一般社団法人　地域情報共創センター
2021年7月1日

1. 「災救マップ」概要

　災救マップは、防災の取り組みを通して、自治体、自治会、学校、寺社・教会等の宗教施設、NPOなどによる平常時からのつながり、コミュニティ作りに寄与し、災害時には救援活動の情報プラットフォームになります。

　災救マップは大阪大学の知的財産です。災救マップの普及については、大阪大学社会ソリューションイニシアティブ（SSI）の基幹プロジェクトとして推進しており、一般社団法人地域情報共創センターが社会実装を担っています。



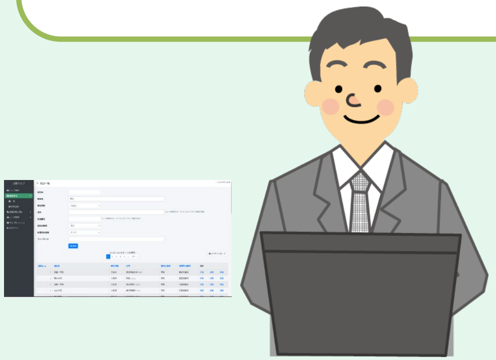
2. 災救マップの構成

災救マップは、市区町村・組織用の管理系（施設情報管理、インフラ稼働・混雑状況発信、備蓄品管理など）と一般ユーザ向けの公開系の２つのシステムがあります。市区町村・組織の皆様は導入のために管理権限設定などが必要ですが、一般ユーザは登録なしで使えます。

災救マップ

管理系

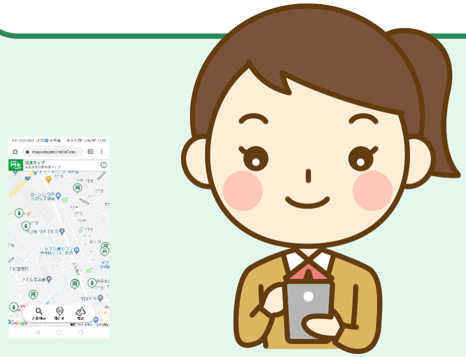
管理者が施設情報と避難状況を管理するシステム



管理画面
https://www.respect-relief.net/user_auth/sign_in

公開系

市民に開かれた、市民が投稿し市民が閲覧するシステム



災救マップ
https://map.respect-relief.net/

3. 「公開系」 3.1 使用・避難状況や混雑状況の活用

避難所を「開設」すると「混雑状況」のアイコンも表示されるため、マップ上のアイコンにより識別することができます。

「使用状況」と「混雑状況」を示すアイコンが表示されます。

3. 「公開系」 3.2 避難状況の投稿

公開系の施設を選ぶと具体的な避難状況が表示され、閲覧・投稿もできます。

避難状況投稿までのフロー

- 施設検索
- ↓
- 必要な項目を入力し「検索」をクリック
- ↓
- 施設を選択しクリック
- ↓
- 施設詳細
- ↑
- マップ上の施設アイコンをクリック

施設詳細 → 「避難状況を投稿する」をクリック

4. 「管理系」 4.1 管理イメージ

災害発生時には、リアルタイムで避難所の状況を入力して掲示します。

避難所

災害の発生

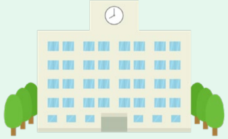
↓

避難所の開設 → 避難状況の把握

↓

混雑状況の入力 → 避難状況の把握

↓



避難所の閉鎖 → 避難状況の把握

本部

避難状況の把握

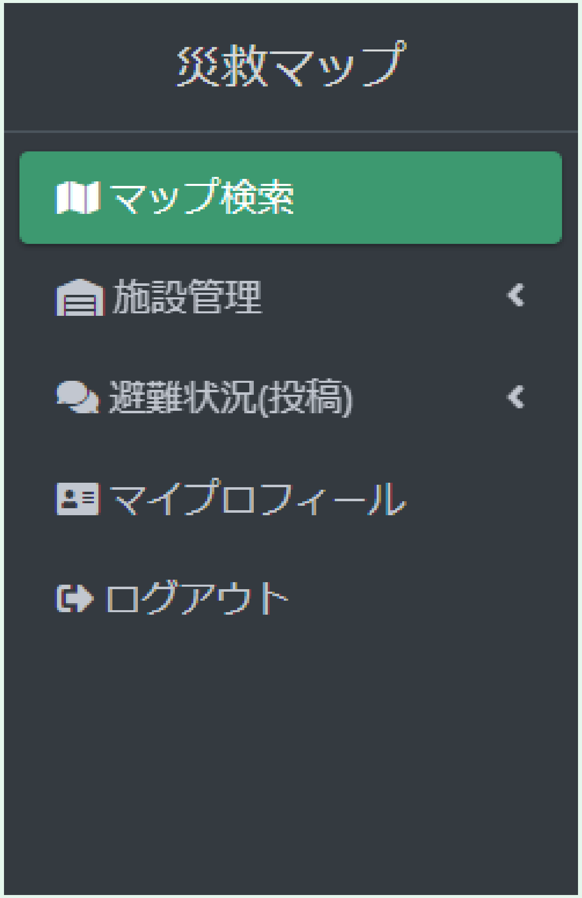
↓

避難状況の編集

施設情報の編集

4. 「管理系」 4.2 管理系の機能の全体像

施設の管理者として登録することにより、施設管理や避難状況（投稿）の管理機能をご利用いただくことができます。



マップ検索（施設検索機能）：
地図上から施設情報にアクセスできます

施設管理（施設検索および情報管理機能）：
施設を検索し、施設情報を管理できます

避難状況：
避難状況を一覧から閲覧できます

マイプロフィール：
管理者のプロフィールを編集できます

一般社団法人地域情報共創センター（RICCC）について

大阪大学は、2018年から大阪大学社会ソリューションイニシアティブ（SSI）基幹プロジェクト「地域資源とＩＴによる減災・見守りシステムの構築」において、「未来共生災害救援マップ」(通称「災救マップ」）独立電源通信システム(愛称「たすかんねん」)の開発を進めてきました。

一般社団法人地域情報共創センターは、2019年、上記のプロジェクトが研究してきた社会課題解決の実装を行うべく設立されました。

当センターは、「災救マップ」と「たすかんねん」等に関わる社会実装を行います。

お問合せ先

【著作・PM】

大阪大学ＳＳＩ基幹プロジェクト
「地域資源とＩＴによる減災・見守りシステムの構築」
研究代表：大阪大学大学院教授（人間科学研究科）
稲場圭信

【管理・運営】

一般社団法人地域情報共創センター
未来共生災害救援マップ　担当

【連絡】

E-mail：saikyu_map@riccc.or.jp
大阪大学＆地域情報共創センターの関係者に届きます。